

つみきのくらし

NO.43

日々の暮らしの中で、こども園つみきとして大切にしたいことや、こどもとおとなの素敵な姿をお伝えしていきます。



大浦 久子

やってみようの原点

暑苦しい日が続き、屋外での活動に制限がある日は日中の活動を室内にし、涼しくなった夕方に園庭で過ごすようにしています。子どもたちの様子を見てみると、「何しているんだろ?」と不思議に感じる行動の裏に子どもたちの意図が隠れていることに気づきます。子どもたちのやってみた行動の意図がわかると必然と声掛けや対応もかわってきます。今回は、2つのエピソードから子どもたちの姿を紹介いたします。

エピソード1

おそとでゴロゴロ

彼が何をしているかわかりますか？
私は、“大変！倒れてる？”とドキッとした場面でした。
しかし、よく見ると彼は何かを見てモゾモゾしながらまぶたをぎゅっととじ目を開けないようにしていました。



彼が見たものはこれ！



気持ち良く、うたた寝をしてしまった子です。

「今眠っちゃったから、そっとしてあげてね」と近くにいた保育者に言われた彼は、眠ってしまった子の様子を観察し、じゃまにならない距離間で真似を始めていました。優しい日差しとそよ風を浴びながら、床の温かさを感じ、実際に真似てみたことで五感を使った類似体験から見本とした子の感覚を知ろうとした行動でした。

エピソード2

職人の技！を知る



フキンを持っていろんな場所を拭いていた彼。なぜ彼の遊びがお掃除(拭き掃除)になったのかを観察してみると、彼はお外の窓ガラス清掃の人を観察していたことがわかりました。



おじさん
すごい！！

はやーい！

ぴかぴか

先日、園内の窓ガラス清掃業者の方が清掃に入りました。見たことのない道具を運ぶ業者の方に警戒心を持つ子もいましたが、作業が始まると様子が変わりました。泡で覆った窓ガラスが一瞬でピカピカになる職人技を、子どもたちは室内から面白がって見ていたのです。子どもたちは、職人の素早い手さばきを見逃さないようしっかり目で追っていました。「おじさん、すごいね！」と感じた子たちは遊びで真似をする、「きれいになった窓を触らないようにしよう、もったいないから」などそれぞれに感じたことを行動にしていました。